

## 令和 6 年度第 3 回堺市バリアフリー化検討委員会 議事要旨

|      |                                                                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催日時 | 令和 7 年 2 月 1 2 日（水） 午前 1 0 時 0 0 分～午前 1 1 時 3 0 分                                                                |
| 開催場所 | フェニーチェ堺 文化交流室（オンライン併用）                                                                                           |
| 案 件  | 1. 堺市バリアフリー基本構想見直し後の各地区（堺駅・堺東駅周辺地区、中百舌鳥地区）における進捗状況について<br>2. まち歩き点検調査（深井駅、泉ヶ丘駅、梅・美木多駅、光明池駅）について                  |
| 配布資料 | ・次第<br>・資料 1 堺市バリアフリー基本構想（堺駅・堺東駅周辺地区、中百舌鳥地区）で位置付けた事業の進捗状況について<br>・資料 2 深井地区、泉ヶ丘地区、梅・美木多地区、光明池地区におけるまちあるき点検調査について |

### 議事要旨

#### （１）開会

挨拶（委員長）

#### （２）案件

##### 1. 堺市バリアフリー基本構想見直し後の各地区（堺駅・堺東駅周辺地区、中百舌鳥地区）における進捗状況について

（事務局から資料 1 について説明）

○委員からの意見、質疑等

##### ●岸本委員

目標時期の「継続」の意味について、進捗が「完了」している項目も、「未検討」の項目も継続となっている。どういう意味で「継続」となっているのか。

##### ●事務局

目標時期については、基本構想を策定した時期から 5 年を目途に整備を進める事業を「継続」と記載している。進捗状況の「完了」と目標時期の「継続」という表現で困惑させてしまった。目標時期については策定後 5 年を目途に進めていくものと整理している。

##### ●岸本委員

5 年間で進める事業はすべて「継続」という言葉を使うということか。

##### ●事務局

そうである。

##### ●岸本委員

それで市民の方は理解できるのか。

●事務局

「継続」の記載については改定版の基本構想策定時の際にもご意見をいただいたところ。基本構想策定後 5 年を目途に取組を進めていく事業は「継続」としている。

●岸本委員

継続して取り組むということはわかるが、「継続」という記載では、市民は 5 年を目標としているとはわからないのではないか。何年何月という数字を入れたほうがわかりやすいのではないか。

●事務局

本資料については「継続」と記載しているが、次回以降、進捗を示す際にどういう記載が市民にわかりやすいかはご意見をふまえて考えたい。

●委員長

「継続」にもいろいろな意味がある。大きく分けると、順調に進めており継続しているので安心してもらいたいという意味。さらに中長期に向けて進めているという意味での継続と、難しい問題がありすぐにとはいかないがこの 5 年間頑張って取組を続けていく、という意味の「継続」もあると思う。市民が知りたいのはそこである。さらには、現状ではどうすることもできないが、5 年間かけて何とか道筋を探し出す、つまり長期的な課題とするという意味も全て一緒になっている。記載方法は検討することでどうか。備考に詳細を記載することも考えられる。

他市では、短期、中期、長期と分けて、それぞれの定義を丁寧に示しているところもある。

資料ではほとんど「継続」なので、短期、中期、長期と記載するほうがいいかもしれない。改めて検討したい。

●土屋委員

ソフト面の対応で、点字ブロックの啓発活動について、大阪メトロも南海電鉄も実施済みとある。具体的にどんなことを実施したのか。

●南海電鉄

点字ブロックへの理解促進に関する取組や啓発について、例えば大阪メトロの備考欄にもあるが、駅構内のホームでは列車通過時には「黄色い点字ブロックの後ろまでお下がりください」といった放送をするなどの啓発を行っている。

●土屋委員

実施済みとなっているので、これからもぜひ啓発活動を行っていただきたい。

私たちは点字ブロックを頼りに歩いている。点字ブロックの上に荷物を置く、立つ人がいることが多々ある。また、点字ブロックの上を、スマホを見ながら歩いている人がおり、私とぶつかることがいまだにある。啓発活動は構内放送しかないのかもしれないが、これからも継続していただきたい。

●委員長

視覚障害者のことを考えて、荷物で通路をふさぐことのないようご配慮をいただきたいという発言だった。

最近特に気になるのは、南海の駅で観光客がたくさんおり、点字ブロック上に大きい荷物をたくさん積み上げ、視覚障害者の通路を妨害している事案である。お客さんと喧嘩にならないように、駅員も上手に、

点字ブロックを妨害することがないようにしていただきたい。

私からも土屋委員の質問に重ねて伺うが、バリアフリーも従来からの車いす、視覚障害、聴覚障害の方に加えて、知的精神発達障害の方、さらには見えない障害、例えば内部障害や LGBTQ の方々への配慮が重要と言われる時代になっている。今申し上げたような方々への配慮の研修は取り組まれているか。

●南海電鉄

「接遇向上のための研修等の開催」と整備項目に記載されているが、いろいろなニーズをいただくので、すべてのお客様のことを考えた接遇研修の取組をしている。

●委員長

どんな研修をするのか、研修の中で何をポイントとしているのか。こういう場合はこういう対応をするということがよくわかっていないようなことも少なからずある。そのようなことも含めてこれからご配慮をお願いしたい。

見えない障害等に関わる職員研修に関して、既に研修を実施している事業者もいる。研修内容については、大阪にも障害当事者のいろいろな団体があるので、障害当事者の方々の意見を聞く、または、派遣するということも始まってきているので参考にしていきたい。

大阪メトロは、視覚障害者のための研修について、特に点字ブロックが妨害されることがないように注意はされているか。

●大阪メトロ

駅構内放送による啓発は引き続きやっていきたいと考えている。

いろいろな障害の方に対する配慮に関してご質問があった。大阪市のバリアフリー協議会にも参加している。その際、車内の照明が明るすぎるとか、車内放送の音が大きすぎるというさまざまなご意見をいただいている。そういった意見を持ち帰り、どうあるべきなのかということを社内で検討し、皆様が快適にご利用いただけるよう引き続き改善していきたいと考えている。

●委員長

先ほどの私の質問であるが、見えない障害の方々、内部障害、LGBTQ、知的精神発達障害の方々への配慮は近年特に課題となってきた。研修においてそれらの方々への配慮については取り組まれているか。

●大阪メトロ

全て配慮できているかということを断言するのは難しいが、社会のニーズに応えるような研修は実施していると理解している。今後もバリアフリーに関する協議会の場でいただいたご意見を社内でブラッシュアップさせていきたいと考えている。

●委員長

南海電鉄も大阪メトロも研修に熱心に取り組んでおられる。研修はソフト面において大事になるのでよくお願いしたい。

事業者、当事者が相互にコミュニケーションをとり、職員にどういうことをしてほしいのかという認識をすり合わせる必要がある。紙に書いてあることを読み上げて研修するという内容ではなく、最新の取組をやる。大阪メトロも南海電鉄も全国的に見ると鉄道事業者の中でも職員の接遇に関しては先進的な事業者

である。今まで以上に、新しい課題にもぜひともチャレンジしていただくようお願いしたい。

参考までに、万博事業の一環として、近畿大学の北川先生を座長として近畿地方の鉄道事業者向けの接遇マニュアルを作成した。ここにはありふれたガイドラインや、従来のマニュアルに書いてある内容はほとんどない。従来のことは当然のこととして、これまで事業者も気がつかなかったような、障害当事者が実際に困っていること、こうしてほしいと思っていることが詳しく記載されている。ぜひそのマニュアルも参考にさせていただきたい。

このマニュアルは関西交通経済研究センター、東京のエコロジーモビリティ財団が刊行している。事務局も把握しておくようお願いする。

#### ●高塚委員

私が気になるのは、駅前広場と公園についてである。以前、埼玉で道路の陥没事故があったが、いまだに工事が進んでいない様子である。駅前広場の地盤がどうなっているのか気になる。災害が起こった場合、地盤沈下が起ると、車いすの人、見えない人、聞こえない人はとても不便になる。もし電気の関係のトラブルで信号が故障すると障害者が一番困る。それに対して早急に安全対策ができるようにしてほしい。

先ほど、岸本委員からもご発言があった「継続」について、5 年間という期間でなく、目標が気になる。期日を記載しても延期して遅れていくことがある。継続するというあやふやな言い方ではなく、期日を定めてほしい。例えば P.12 にあるように、「多様な手段による情報提供の整備」について「未検討、未調整」と書いてあるが、曖昧な書き方である。継続と記載して実際に取組がなされていなければ、例えば南海トラフ地震や埼玉のような事故が起こった場合、交通が麻痺してしまう。「継続」という曖昧な言葉ではなく、きっちり検討しているか確認したいと思うので、よろしくをお願いしたい。

#### ●委員長

1 つは鉄道だけでなく、すべての事業に言えることであるが、災害時や緊急時において、障害者、特に視覚障害、聴覚障害等の方々に非常に不自由、不便、危険がある。災害時について検討されているかということである。

もう 1 つは、災害時に関わらず、情報提供について、駅構内や道路での情報提供は、検討だけでは困る。曖昧な表現ではなく、具体的に期日を記載してほしいという要望だったと思う。

災害については、それぞれの事業の中で対応すべきものもあるが、全体に関してはマスタープランへの記載はいかがか。特に今回埼玉で発生した地盤沈下の問題のように自分が被害にあう、あるいは地盤沈下による水道、ガス、電気への影響を受けることもありえる。しかし、情報を把握する術がないと、そこを通行している方や近隣の方は一体何が起っているかがわからない。このような災害時や緊急時の対応についてはマスタープランに記載したほうがよいのか。

#### ●事務局

災害時、緊急時の対応については、マスタープランに項目を設けて記載している。特に災害時、避難にエレベーターが使えないとか、人的関与が必要という場合も想定して、マスタープランに記載している。

埼玉の件を受け、堺市でも対応を取り、点検を行ったと報道提供がある。詳細は堺市の報道提供資料で 2 月 6 日に提供されている。

#### ●委員長

災害時、緊急時の対応については、マスタープランに項目があるとはいえ、具体化に関しては都度検討の必要がある。埼玉で起きた事故の件を例に、緊急事態の際というのが情報として必要になるのか、あるいは情報を提供するの誰なのかを整理し、準備しておく必要がある。マスタープランに記載あるから良いのではなく、その内容の具体化が重要であり、その都度改善が必要と思う。ほかにも問題があると思うので、それを掘り起こして危険を回避していく必要があると思う。

災害時の対応については、特定事業の中に明記されていない。私の意見としては、マスタープランの中の大項目にとどめずに、場合によっては検討会を作るなど先んじた対応を考えていく必要があると思う。

#### ●事務局

災害時の対応について、特定事業や整備項目に位置づけるかどうかは、本日のご議論をふまえてどうすることが一番実効性を持てるのか、引き続き委員長と相談させていただきながら考えたい。

#### ●委員長

堺市の泉北の自治会で、避難訓練に障害当事者を対象として加えている点では全国で初めてと思われる取組をしている。継続して以前から行っている自治会もある。この会議の課題ではないが、そのような自治会の避難訓練で障害者を想定した取組があるので、発信しておく必要があるのではないかな。

しかし、自治会の避難訓練の中でも、車いすと視覚障害については認識されているが、それ以外の障害者になると、堺市は先進的とは言え、まだまだ知られていない状態である。

自治会でやっている経験は、鉄道事業者、バス事業者、道路事業者、公園事業者においても、知っておくべきことが 8 割 9 割を占める。自治会でいろいろな取組をされているので、タイアップしていただきたい。鉄道事業者も災害時の対策は第一課題であるので十分に取組まれているはず。その中で障害者が漏れることがないようにご留意いただきたい。

2 番目の発言の障害者対応、情報提供に関して、「検討、調整予定」ではなく、時期を明確にして取組をしてもらいたいという要望であった。南海電鉄はいかがか。

#### ●南海電鉄

「多様な手段による情報提供の整備」は進捗を「検討、調整予定」としているが、例えば最近他市で要望をいただく例がある。列車の遅延情報や異常時の情報を文字でわかるようにしてもらいたいという要望に対して、現在改札付近に文字で遅延状況などが把握できるようにしているが、ホームではそれがわからない。1 つの方法としてはホーム上にある案内板に文字を表示する方法になるが、システムの改修を伴う。そのため、その他の方法についても検討しているところ。

その他の方法としては、電車の発着情報など現在の状況がスマホでチェックできるアプリがある。アプリであればホーム上でも車両の中でも確認できる。それをどう啓発していくかという課題がある。引き続きほかの事例も含めて検討、調整を進めさせていただきたい。

#### ●委員長

ここでの「検討」というのは、そのうち検討するというのではなく、喫緊の問題として 1 つずつ具体的に検討しているという回答だったと思う。アプリも含めて活用をどうすればいいか、これも喫緊の話として検討しているとお話いただいたと理解する。大阪メトロはいかがか。

#### ●大阪メトロ

南海電鉄と類似の回答になるが、情報提供の整備に関しては、改札階にディスプレイでサービス情報表示を視覚的に発信している。ホーム階では、行き先案内の表示版に文字で発信するということを取り組んでいる。緊急時における車内での情報発信は放送が主になっている。聴覚障害の方から視覚的に見える方法がないかという意見をいただいている。意見を聞きながら対策していきたいと考えている。

●委員長

JR 西日本はいかがか。

●JR 西日本

駅構内にはディスプレイ表示による非常時や列車遅延の情報提供を行っている。ホームでは電光掲示板にも遅延状況を表示するようにシステムを整えている。構内放送や車内放送で異常時の情報提供をしている。聴覚障害者に対する情報提供に課題があることは弊社も同じである。これは鉄道事業者全体の課題だと、いろいろなバリアフリー協議会に参加している中で感じている。

スマホのアプリを使用し、チャット形式でやり取りするシステムが他事業者にあるようだが、それが弊社のシステムに転用できるかどうかを含めて検討中である。

●委員長

緊急時はどうしても車内放送、構内放送でいろいろな情報を流すことになる。さらにポイントになる場所や車内ではディスプレイで情報を流すが、音声情報が最初に出る。次に音が聞こえない方々のために文字情報を出していくことになるが、音声情報ほど正確に伝えることができない実情がある。取組としては始まっているようであるが、急いでいただきたいというのが先ほどのご発言であった。

●高塚委員

P.12 の書き方を変えてほしい。「検討」、「未検討」とあるが、今の話では結局内容的には同じである。

●事務局

岸本委員のご発言とも重複するところである。市民が見てわかりやすい表記については今回配慮が足りない部分があったと認識している。本日のご意見を踏まえ、どういう形であれば市民の方もわかりやすく、また現状が把握しやすい資料になるか検討していきたい。

●委員長

今の議論を聞いていると、もう少し市民がわかりやすくということであれば、現在実施している、検討している取組について項目をもっと具体化することが考えられる。例えば、写真を掲載したりし、備考ではなく内容として掲載するなど。市民目線で、「これが現時点での最新の基本構想なんだな」、「これが話題になっていて、こんなことを既にやっているんだな」、「事業者としてはこんなことを検討しているが、こんなことが難しくて中期課題になってしまうんだな」ということがよくわかるような基本構想にしたい。

●大町委員

今いろいろ聞かせていただいて、事業者はもちろんだが、私たちは市民の代表で出席させていただいている。私たちの団体にもいろいろな組織があるが、啓発の部分で私たちもしっかり取り組んでいかなければいけないと感じた。多様性を認め合う社会ということで、ダイバーシティも重要である。この問題を入れていただいて、しっかりと取り組んでほしい。

●委員長

ダイバーシティも重要になってくる。具体化するということが必要になってきている。これまでの発言を抽象的な議論だけでなく、具体化してほしいという発言である。特に女性団体では、女性問題の解決が課題と思われる。

●杉本委員

調整予定、検討中と記載されているが、具体的な時期を記載するとよくわかると思う。これだといつまで続くかわからない。

また、いつも思うのは段差問題である。歩道を歩いている人が段差でつまづいて転んでいたのも、段差は少なくしてほしい。高齢者は段差があると歩行するのが危険である。障害者だけでなく、一般の人お高齢者が多くなってきているから、段差をできるだけ少なくしてほしい。

●委員長

あらゆる生活の場面から段差をなくしてほしいという発言だった。また、期限、時期の記載については検討したい。

●事務局

本日のご意見を踏まえ、委員長と相談させていただきたい。

## 2. まちあるき点検調査（深井駅、泉ヶ丘駅、樺・美木多駅、光明池駅）について

（事務局から資料2について説明）

○委員からの意見、質疑等

●委員長

まち歩き点検当日の天気が気になる。長期的にこの寒さが続くのか。長期予報はどうなっているのか。

●事務局

当日寒くなる可能性はあるが、3月なので少し暖かくなっているのではないかと思う。

●委員長

泉北 4 駅周辺地区に関しては、交通バリアフリー基本構想の策定以来、十分に点検調査を実施していなかった。

どの地区も新しい施設ができ、近畿大学病院のように非常に大きい建物がこれから建つなど、まちがどんどん変わってきている。バリアフリーの点検調査は大変重要な役割を果たす。この協議会の意見は間違いなくこれからの開発で十分考慮されるはずである。日頃から意見は言えるが、この機会を逃すことがないようみなさまのご協力をお願いしたい。

●西尾委員

先日、保健医療協議会に出席した。近畿大学病院の院長から病院について説明があった。近大病院は11月1日にオープン予定という報告を受けた。1日の診察人数が2200名という大きな病院で、ベッド数が800床と聞いている。通院される方は南河内地方のほうが40数%、堺市からは30数%と聞いている。駅から病院までの通路は現在どういう状況になっているのか報告をお願いしたい。

●事務局

泉ヶ丘駅から近大病院までのルートについて、改札を南側に出て、南側を下り、駅の中の商業施設を通る。バス停のあたりまで出ていただくとエレベーターが1機ある。階段が難しい方はエレベーターを使っていただくと駅前の2階にデッキの広場に行けることができる。そこからさらに南側へ向かい、泉ヶ丘広場通り東へ向かう。まっすぐ遊歩道を行くと病院に到着する。遊歩道デッキと泉ヶ丘広場についてはある程度整備がされている。また泉ヶ丘広場にもエスカレーターがあるので、ルートとしては確保できている状況であるが、今回改めてまちあるき点検を通じて、実際に歩いてみた意見をいただきたい。

●森口委員

子育て広場に来ていただいているお母さん方、ベビーカーで参加していただける方をお願いしたところ、皆さん快く受けていただいた。

説明のときに、2駅とも行くのかと思ったが、どちらか1駅ということなので、もう1つのほうは、子育ての目線がなくなってしまうのではないかと心配している。

●事務局

班分けについて、事務局としても駅が2つ離れてしまうので、ご参加いただく方の要望や負担を配慮したいと考えている。どちらの駅舎にもバランスよく皆様の意見をうかがえるようにしたい。当日は事務局が誘導はする。前述のとおり、要望や負担などを配慮し、いずれかの班に固まらないようにしたいと考えている。

●委員長

ベビーカーを使用する現役の子育て世帯方にも参加いただけるのか。

●森口委員

現役で子育てをしていない私が歩くだけよりも、現役世代に歩いてもらう方がよいと思う。

●委員長

現役の子育て世代の方でなくとも、昔の経験で見ていただいてもいい。方法として、赤ちゃんがいなくてもベビーカーを押して参加していただくことも考えられる。参加いただけるのは非常にありがたい。

●事務局

各駅舎や周辺地域を歩いた後に意見交換会をそれぞれのグループごとに行い最後に出た意見を全体で共有する機会を持つ。例えば深井駅で出た意見が泉ヶ丘駅で全く通用しないわけではない。共通するご意見、課題はあると思うので、そういうところで担保できれば考えている。

●委員長

なるべくすべてのルートに子育て世帯を配置したい。万が一欠けているところがあっても、点検いただいたルートの知見を普遍化するよう、事務局として配慮していくということである。よろしくお願いします。

ルートに関してはこれでよいか。事務局として精査しており、すべてのルートが重要であるが、その中でも特に重要なルートをまちあるきに設定したということである。この案に関しては現時点で了解いただいたものとしたい。

光明池駅に関しては本市だけでなく、隣接する和泉市も関係しているが、どんな状況か。

●事務局

バリアフリー化検討委員会の意見を踏まえて、改めて和泉市と協議の場を持った。その進捗について報



告する。

結果としては、まちあるき点検について和泉市も参加の必要性について十分理解いただいたが、予定の調整が難しくまちあるき点検は参加できないという回答をいただいている。

一方で、和泉市として光明池駅における和泉市側の道路等の自主点検を行ったと報告を受けている。

また、バリアフリー化検討委員会への出席の必要性については認識いただいている。年度を明けて夏ごろ開催予定の次回検討委員会について、オブザーバーとして参加調整したいと回答がある。なお、和泉市として、堺市のバリアフリー検討委員会の意見を踏まえて、堺市と連携しながら対応を検討していきたいと回答をいただいている。

#### ●委員長

経過を補足する。光明池駅周辺に関しては駅の周辺半分が和泉市になる。交通バリアフリー基本構想を策定したとき、光明池駅の利用者は和泉市民も多いので、できれば和泉市にも参加してもらいチェックしたかったが、調整が難しく、和泉市側に呼び掛けることが当時できなかった。当時、光明池のまちあるきの際に、行政側の理由で、和泉市側の参加がないのはおかしいと、強い批判が出た。和泉市と話し合いをしたが、難しい面もあり、和泉市の道路課にこの委員会にオブザーバーで参加していただいた。それを受けて、和泉市側は道路の整備を進めた。

大阪府も、自治体同士の協力を奨励している。北大阪急行の桃山台駅は同様に豊中市と吹田市で分かれており、2つの市が合同で基本構想を策定し策定には吹田市・豊中市の両市の記載がある。2市は当時大阪府とも相談し、好事例として策定された。この事例は全国的にも非常に注目されている。行政区で分かれるというのは住民目線からすると関係がない。行政の区域が制約になるのはおかしいと感じる。

今回も道路は和泉市で整備されると思うが、和泉市民の方々が光明池駅の点検に参加されないのは残念である。前回同様、和泉市の方が参加していただくことは期待する。

#### ●事務局

次回の検討委員会には和泉市にオブザーバーとして参加していただく。

#### ●委員長

まちあるき当日、和泉市民の方も参加してもいいと思う。ただ、和泉市側が今から呼びかけるといった調整をする時間的余裕もないと思う。和泉市との調整は引き続きお願いする。

#### ●副委員長

今日皆さんから活発なご意見がたくさん出たのは素晴らしいと思ってお聞きしていた。

堺駅・堺東駅、中百舌鳥の進捗状況の報告の中で、丁寧に視覚障害者誘導用ブロックの敷き直しに取り組まれていることは、基本構想をもとに継続的にこういう場を設けられて、本当にいい成果が出ていると思った。

中百舌鳥については、先日セミフォーマルな場で、中百舌鳥の再開発の計画を聞かせていただく機会があった。まだ基本構想の段階だとお聞きしたが、そういった段階からこの協議会に参加されている障害当事者の委員の代表が参画していける機会を作っていけるとよいのではないかと考えている。

まち歩きには現地参加させていただくので、よろしくお願いします。

●委員長

ご発言がまだない市民委員から自由に発言をお願いしたい。

●豆多委員

昔に比べて、駅にエレベーターがついているので、どんなところにも行けるようになりありがたい。

●委員長

嬉しい発言である。昔から見るとずいぶんよくなったということである。今の言葉を背にさらに前進していきたい。

●中川委員

点字ブロックの啓発について、当たり前のことであるが、荷物が重たいと点字ブロックに置いてしまうということがあり、反省している。以後気をつけたい。

●委員長

点字ブロックには気をつけているつもりであるが、私もたまに自分自身が立ってしまうときがあり、反省することがある。市民みんなが考えることが大事である。

市民委員から全員発言いただいたため、議事は以上とする。

(以上)